

令和 5 年 5 月 31 日現在

機関番号：33917

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K13187

研究課題名(和文) 広域語形分布地図と狭域詳細地図を利用した漢語常用語彙史研究

研究課題名(英文) A Study of the History of Commonly Used Sinitic Vocabulary Based on a Wide-Area Map and a High-Resolution Narrow-Area Map

研究代表者

鈴木 史己 (Suzuki, Fumiki)

南山大学・外国語学部・准教授

研究者番号：20803886

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、中国語の常用語彙の歴史を明らかにするために、まず現代中国語方言の広域語形分布地図と狭域詳細地図を作成し、言語地理学的手法で分析する。続いて、史的文献資料を使った分析とつきあわせることで、より精度の高い言語変化のメカニズムを提示し、漢語語彙史の全貌の解明を目指すものである。研究期間中に8項目の常用語彙を分析し、言語地理学的研究のサンプルを増やすとともに、長江下流域の方言の特質について分析を進めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中国語語彙の歴史研究に、現代方言の語形分布地図を作成・分析する言語地理学的手法でアプローチしたこと、また、広域地図と狭域詳細地図を組み合わせることでより緻密に地理分布を解釈したことに本研究の特徴がある。類似する分布傾向をみせる項目を選んで分析したことで、分布類型の平行例を蓄積することができた一方で、その多様性についても新たな知見が得られたことに学術的意義が認められる。

研究成果の概要(英文)：To clarify the history of the commonly used vocabulary of the Sinitic languages, this study first created a wide-area word form distribution map and a high-resolution narrow-area map of modern Chinese dialects and analyzed them using linguistic geographical methods. We then combined the analytical results with historical documents to present a more accurate language change mechanism and elucidate the entire history of Chinese vocabulary. During the research period, we analyzed eight commonly used vocabulary items to increase the linguistic geography research sample. We also analyzed the characteristics of the dialects of the lower reaches of the Yangtze River.

研究分野：中国語学

キーワード：言語地理学 漢語方言 漢語語彙史

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 常用語彙の歴史的研究の主要な方法は、史的文献を調査して、各資料・各時代における語彙の使用状況や、主要語形が交替する過程を記述し、その変化の規則性を考察するものである。現代中国語方言の分布状況が参照されることも多いが、分析対象とする語形式・用法の有無や、それが用いられる地域(主に「北方方言」、「吳方言」のような方言区画)を傍証としてとりあげるか、方言語形の史的文献における出現時期を指摘するにとどまる。

(2) 現在の地理分布から歴史的な変化を推定することを可能とする方法論の一つが言語地理学である。言語地理学的手法は、現代方言における言語特徴分布地図を作成し、その地理的分布に基づいて地理・歴史・文化・風俗などの言語外要素を結合させながら解釈することで、言語現象の通時的変化の過程とその原因を明らかにすることを特徴とする。しかし、中国語学において言語地理学は未成熟で、研究の絶対数は決して多くない。方言分布を地図化しても解釈まで至るものが少なく、そもそもこれまでの言語地理学の研究では、方言差が少なくなりがちな常用語彙は本格的な分析の対象となりにくかった。

(3) 現代方言の地理的分布を「記述」するだけでなく、一歩進んで「解釈」することは、語彙の歴史的研究に対して非常に有効である。特に、語彙差が大きい地域では、尺度を小さくした狭域詳細地図の作成が不可欠であり、個別の事例を積み重ね、そのうえで語彙変化のより一般的な法則性を明らかにする必要がある。中国では各地の方言調査報告が陸続と刊行されており、漢語方言を対象とした広域地図・狭域詳細地図を作成する条件が整っている。

### 2. 研究の目的

(1) 漢語語彙史全体を見通す意識をもち、言語地理学的手法による歴史的变化の再構成と、史的文献による記述をつきあわせることで、高い精度で漢語常用語彙の変遷過程とそのメカニズムを明らかにする。本研究の問題意識は、1)語または語彙体系がいかに成立するか、2)成立した語彙がいかに定着・消失・変化するか、3)これらの過程は地理的分布においていかなる特徴を示すか、の3点に集約される。

(2) 中国語の常用語彙について、現代方言の語形分布地図を作成・分析することで、言語地理学的研究のサンプルを増やすとともに、文献的常用語彙史研究の不足を補い、語彙変化の実態とそのメカニズムの解明を目指す。また、特に長江下流域で方言差が大きくあらわれる語彙項目を手がかりに研究を推進することで、長江下流域が漢語方言史・漢語語彙史において果たす役割についても考察する。

### 3. 研究の方法

(1) 意味を単位として毎年度1~2項目を選定し、主に既存の方言調査報告に基づいて、広域・狭域語形分布地図を作成・分析する。史的文献とのつきあわせも必要な作業であるが、まずは言語地理学的研究から出発することを原則とする。また、狭域詳細地図の分析には、当該地域の言語はもちろん、文化・社会など言語外要素の知識が不可欠であるため、項目の選定にあたっては、報告者が方言調査を行った経験のある江蘇省・浙江省で語彙差が大きくあらわれるものを手がかりとして研究を推進する。

(2) 現代方言の地理的分布にもとづいて、タイムスパンの長い歴史的变化の再構成を可能とする広域語形分布地図を作成し、特に語彙差が大きい地域では高精細度の狭域詳細地図とあわせてより具体的な変化過程を考察する。続いて、史的文献による記述と統合して検証することで、より精度の高い言語変化のメカニズムを提示し、漢語語彙史の全貌の解明を目指す。

### 4. 研究成果

2019年度は名詞項目を分析対象として「顔」・「洗面器」、2020年度は形容詞項目を分析対象として「(背が)高い・低い」、2021年度は、動詞項目を分析対象として「(人を)呼ぶ(call out)」を表す語をそれぞれ扱い、各語の発展の歴史とそのメカニズムを明らかにした。最終年度である2022年度は、「雨が降る」をとりあげる予定だったが、長江下流域に分布する方言の特質を明らかにするという目的のもと、南北対立を示すサトイモ・ナガイモ、アワの分析を優先することとした。

(1) 「顔」を表す語は、長江を境界として北方の“臉”、南方の“面”が南北対立を示す。北方の“臉”が長江を越えて南岸にも分布する状況から、“面”がかつて広く分布しており、後に北方の“臉”が分布域を拡大したと推定した。長江下流域の詳細地図では、「頬」などの顔の一部から「顔(全体)」への指示対象の拡大が観察された。これらの語彙変化は、史的文献調査で明らか

かになった“面”>“臉”の交替過程と基本的に一致していることを確認したうえで、“面”>“臉”の交替は実際には北方方言に認められる変化にすぎず、南方方言では“面”が堅持されていることを指摘した。

(2)「洗面器」を表す語は、“臉盆”・“面盆”のように「顔」を表す語素をもつ場合が多い。「洗面器」を表す語の「顔」成分の分布が、「顔」を表す語とほぼ重なることから、北方の“臉”、南方の“面”という分布傾向は安定性がかなり高いことを明らかにした。また、異なる材質の洗面器を、語幹の異なる語形を用いて呼び分ける現象の分析から、「顔」+“盆”から構成される語形が近代的な洗面器を表す語として急激に全国に伝播した可能性を示した(図1)。

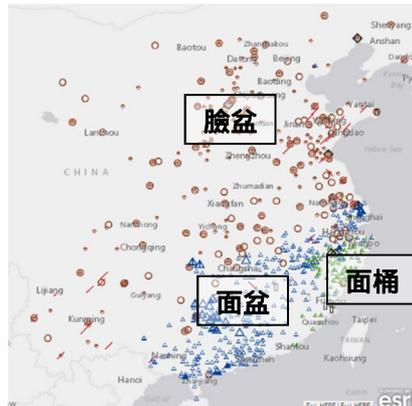


図1 「洗面器」(Suzuki 2019)  
注：凡例表示は報告者による

(3)「(背が)高い」は、“高”の分布地点が多数であるが、長江下流域を中心に“長”が分布する。この分布傾向から“高”>“長”と推定される一方で、一部の地域では歴史的に古い成分を保存する傾向がある複音節語に“長”が用いられ、逆の先後関係も示唆される。史的文献研究によって“長”>“高”という交替が起こったことが明らかになるが、これは「長い」を表す語が「(背が)高い」を兼ねる体系から「高い」を表す語が「(背が)高い」を兼ねる体系へと変化したことを意味している(図2)。



図2 「高い・低い」(鈴木 2021)  
注：凡例表示は報告者による

(4)「(背が)低い」は、“矮”の分布地点が多いほか、長江下流域を中心に“短”、山西・陝西・河南と広西に“低”などが分布する。このうち“矮”は「(背が)低い」を表す専用語形である。史的文献では“短”>“矮”という交替が観察され、これは「短い」を表す語が「(背が)低い」を兼ねる体系から「(背が)低い」を表す専用語形を用いる体系へと変化したことを意味している。“矮”は一部の地域で「(背が)低い」だけではなく上位概念の「低い」を表す語にも用いられ、体系性のさらなる変化と見なすことができる(図2)。

(5)「(人を)呼ぶ」を表す語形は、標準中国語でも使用される“叫”・“喊”が大勢を占め、広域地図では漢語方言全体に分布する。これらの語形は多くの方言で同時に「叫ぶ(shout)」という意味をも表す。“叫”は「(動物が)鳴く」という意味で用いられる語形でもあり、さらに「(人間、特に子どもが)泣く」という意味で用いられる方言が見られる。ただし、“叫”の意味に着目して分布地図を作成すると、「(人を)呼ぶ」を表す“叫”と、「(子どもが)泣く」を表す“叫”の分布地域はほとんど重複することがなく、補い合うような分布を示すことが注意される(図3)。語形分布地図の分析により、「発音器官で比較的大きな音を出す」という共通点をもつ、「呼ぶ」「叫ぶ」「(動物が)鳴く」;「(人間が)泣く」という一連の意味領域を表す語形が、相互に関連しながら分布することが明らかになった。



図3 “叫”の意味  
(鈴木(未刊))

(6)「サトイモ」を表す語は、北方では栽培状況を反映してほとんど報告されず、南方では“芋”系語形が分布する。他方、「ナガイモ」を表す語は北方に“山薬”、南方に“薯”系語形が分布し、南北対立を示す。“山薬”も“薯”系語形の変形と見なしうることから、「ナガイモ」は“薯”、「サトイモ」は“芋”という使い分けが認められる。

(7)「アワ」を表す語は、植物名と脱穀後の実の呼称が区別される。植物としての「アワ」は、北方に“穀”系語形、南方に“粟”系語形が分布し、南北対立を示す。「アワ」の脱穀した実を表す語形は、北方に“米”系語形、南方に“粟”系語形が分布し、やはり南北対立を示す。これらの語では、植生とも関わって長江付近が異なる系統の語形の境界となっていることが明らかになった(図4)。



図4「アワ(植物)」(SUZUKI 2023)  
注：凡例表示は報告者による

(8) 本研究が扱った8つの常用語のうち、5項目(顔、洗面器、サトイモ、ナガイモ、アワ)で長江付近を境界とする南

北対立が見られた。また、2項目（背が高い、低い）で長江下流域において歴史的に古い語形が保存されていた。他方、岩田（2009）は長江下流域が革新の中心地ともなりうることを指摘している。長江下流域は、中国語方言を南北に二分する長江線の東端にあたり、古来政治・経済の中心の一つであったことから、歴史的な言語変化を考察する上で重要な地域でもある。本研究によって長江下流域の重要性が再確認されるとともに、その多様な性質がより一層浮き彫りになったと言える。長江下流域が漢語方言史・漢語語彙史において果たす役割については、今後の課題として継続して分析を進めたい。

(9) 史的文献資料の分析によって観察される語彙の変化が、地理的に見れば一部の方言の変化にすぎないことも、本研究によって得られた知見の一つである。現代の方言地図だけではなく、史的文献研究を利用して近代以前の地理分布の様相を地図化・可視化することができれば、より正確に語彙変化をとらえることができるようになる可能性がある。

#### < 引用文献 >

Suzuki, Fumiki, North -south Difference in Common-use Lexicon for Sinitic Languages: A Case Study of Words Denoting “Washbasin”, 日本地理言語学会第一回大会予稿集、2019、103 - 107

鈴木 史己、漢語方言中の反義形容詞比較研究 - 以“高/矮”為例、中国語言地理研究論文集、2021、210-217

鈴木 史己、漢語方言の「呼ぶ」を表す動詞について、未刊

SUZUKI Fumiki, ‘Foxtail millet’ in Sinitic, Linguistic Atlas of Asia and Africa II, 2023、73 - 75

岩田 礼 編、漢語方言解釈地図、白帝社、2009

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 SUZUKI Fumiki	4. 巻 II
2. 論文標題 'Yam' in Sinitic	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Linguistic Atlas of Asia and Africa	6. 最初と最後の頁 134-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5281/zenodo.7754469	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 SUZUKI Fumiki	4. 巻 II
2. 論文標題 'Taro' in Sinitic	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Linguistic Atlas of Asia and Africa	6. 最初と最後の頁 110-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5281/zenodo.7754469	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 SUZUKI Fumiki	4. 巻 II
2. 論文標題 'Barnyard millet' in Sinitic	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Linguistic Atlas of Asia and Africa	6. 最初と最後の頁 95-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5281/zenodo.7754469	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 SUZUKI Fumiki	4. 巻 II
2. 論文標題 'Foxtail millet' in Sinitic	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Linguistic Atlas of Asia and Africa	6. 最初と最後の頁 73-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5281/zenodo.7754469	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 SUZUKI Fumiki	4. 巻 II
2. 論文標題 'Broomcorn millet' in Sinitic	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Linguistic Atlas of Asia and Africa	6. 最初と最後の頁 47-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5281/zenodo.7754469	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 SUZUKI Fumiki	4. 巻 II
2. 論文標題 'Wheat' in Sinitic	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Linguistic Atlas of Asia and Africa	6. 最初と最後の頁 11-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5281/zenodo.7754469	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木史己	4. 巻 上
2. 論文標題 試論漢語詞彙的系統化 以表 玉米 義詞為例	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 岩田礼教授栄休記念論文集	6. 最初と最後の頁 306-324
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5281/zenodo.6342364	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 SUZUKI, Fumiki	4. 巻 -
2. 論文標題 Grammatical Relations in Sinitic	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Studies in Asian and African Geolinguistics II "Grammatical Relations"	6. 最初と最後の頁 12-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木史己	4. 巻 -
2. 論文標題 漢語方言中の反義形容詞比較研究 以“高/矮”為例	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国語言地理研究論文集	6. 最初と最後の頁 210-217
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木史己	4. 巻 -
2. 論文標題 漢語方言有關“臉”的詞語比較 以江浙地区的高精細度地圖為線索	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東部亜洲地理語言学論文集	6. 最初と最後の頁 73-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fumiki Suzuki	4. 巻 -
2. 論文標題 Characteristics of the Geographical Distribution of Words Denoting Cultural Items in Sinitic Languages	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Papers from the Workshop “Phylogeny, Dispersion, and Contact of East and Southeast Asian Languages and Human Groups”	6. 最初と最後の頁 14-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件(うち招待講演 0件/うち国際学会 3件)

1. 発表者名 鈴木史己
2. 発表標題 中国語における渡来作物の方言
3. 学会等名 東京外国語大学・国際日本研究センター、国立国語研究所共同開催ワークショップ「日本語・中国語・フランス語における渡来作物の方言」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hiroyuki Suzuki, Kenji Yagi, and Fumiki Suzuki
2. 発表標題 Lexical relationship in some animal and plant terms
3. 学会等名 55th International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics (Pre-Workshop [1] Geolinguistic approach to Sino-Tibetan) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木史己
2. 発表標題 漢語方言中の反義形容詞比較研究 以“高/矮”為例
3. 学会等名 中国語言地理比較研究論壇 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Fumiki Suzuki
2. 発表標題 Characteristics of the Geographical Distribution of Words Denoting Cultural Items in Sinitic Languages
3. 学会等名 The 27th Annual Conference of International Association of Chinese Linguistics (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Suzuki, Fumiki
2. 発表標題 North-south Difference in Common-use Lexicon for Sinitic Languages: A Case Study of Words Denoting “Washbasin”
3. 学会等名 日本地理言語学会第一回大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------